

B29ノ如キ遠距離爆撃機ニアリテハ基地遠隔爲空襲地點ニ對シテ
 大風一過的攻撃ニ止リ警報解除ハ敵機ノ脱去直後又ハ一二時
 間後ニ於テ實施スルモ可ナリ
 守備隊長ハ此ノ着眼ニ致シ意ヲ表シ此ノ卒直ナル意見ニ感謝ス
 此ノ卒直ナル意見ニ對シテハ直ニ卒直ニ説明スルヲ適當ト認ム
 諸官承知通り高級部員ハ戦傷入院中ニ付守備隊長直接
 説明ス尚高級部員ノ負傷ハ輕傷ニテ日ナラス退院ノ見
 込ニ付安心ヲ乞フ

第二 所見

空襲警報ヲ解除ノ際「當且或ハ再度空襲アルヤモ計ラズ
 止ナキヤモ計ラズ
 但シ全般ノ狀況特ニ初泊丸ノ出帆ヲ考慮シ解除スルヲ適當
 ト認ムト判断セリ

何故今日ハ全クナカルベシト思フ迄待ダザリシヤ
待チ得ザリシナリ

何故ニズ、

和泊丸ハ當日沖永良部島へ向ケ一〇〇〇出帆、豫定ナリシモノ五
敵機徳之島ヲ通過セルニ依リ出帆待テヲ命ゼリ

之ヲ何時解除スベキヤハ問題ナリキ

任務ハ決心基礎ナリ

和泊丸ハ次ノ任務ヲ有セリ

和泊丸ハ二十六日名瀬ニテ徴兵検査ヲ受クベキ沖永良部島、壯下
ヲ検査ニ間ニ合フ如ク名瀬ニ輸送スベシ

故ニ和泊丸ハナルベク速ニ和泊港へ送ル必要アリキ

和泊丸ハ山港ヨリ和泊港マデ當日ノ天候ニテ約六時間半ヲ要
スル見込ナリ

到着後ノ人員 兵器 材料等ノ揚陸ヲモ考慮シ遅クモ一三〇〇三八
出帆ヲ要セリ

守備隊長ハ概ネ一三三〇迄ニハ決心スルヲ要セリ

尚奄美守備隊全地區ニ發シタル空襲警戒報ナリシヲ以テ奄美

地區ノ全對空射撃部隊ガ戦闘配置ニ就キ其他ノ部隊モ

警戒連絡等ノ處置ヲ講ジ又砲爆撃ノ損害ヲ蒙ラサル爲洞

窟内ニ在リテ他ノ業務ニ服シアラザルヲモ考慮セリ

一三二〇頃ニハ其レ迄ニ到着セル電報全部ノ翻譯ヲ終リ知り得

タル情報ノミニニテハ空襲警戒報ヲ繼續スルヲ要セザリシナリ

空襲警戒報ヲ解除セル場合ハ別命ナク警戒報ニ移リ丙號

戦備ヲトルモノニシテ空襲警戒報ヲ解除スルモ警戒戒ハ嚴ニ實

施セラルハナリ 勿論最初ニ述ベタル戦訓ノ意見ハ考ヘザリシ

ニアラズ 否寧ロ常ニ考ヘ居タルフトニシテ熟慮ノ結果解

6680

除ト決心セルナリ

其レ程迄ニ考ヘナガラ何故ニ大軍ヲトツテ解除ヲ暫ク待タザリ

シヤマ、

續イテ敵ノ空襲アル場合、本日午後以後何時ノ公算最モ

大ナリマヲ考ヘタルナリ。而シテ守備隊長ハ本日午後出

帆ヨリ明日午前出帆ヲ一層危険ト判断セリ。而カモ和泊丸ハ

一日モ早ク和泊港ニ到着スルヲ要スル状況ニアリキ。而シテ此ノ状

況が一兩日續ク場合ヲモ考慮シテ決心セリ

而シテ爲サバルナリ。嫌疑スナリノ内ニ和泊丸ヲ山港内ニ撃手沈

サレハ公算ナキニアラズ

徳島ヨリ安全ナル沖永良部島ニ速ニ避難セシムルヲ良策ト判

断セリ。出帆シテ今度ノ結果トナリテハ甚ク相済マヌトト

ナレドモ和泊丸が伊仙海岸ヲ離ル、時機ハ敵機來襲算

最モ少キ時刻ナルヲ以テ思ヒ切り出帆セシメタリ 若シ途中ニテ
 敵機來ラバ機先ヲ制シテ撃隊スレバヨシト考ヘ居リタリ
 撃隊出來ズトモ攻撃精神、敢闘精神ヲ發揮シ射撃
 スルニ於テハ敵ハ近寄り得ザルベシト判断シ居レリ
 此ハ戦訓ノ教ズル所ナリ
 敵ガ銃撃態勢ヲトツテ我ニ向ヒ來タル時見敵必殺ノ精神ヲ
 振起シ機先ヲ制シテ一發必中ノ射撃ヲナサバ敵ハ沈着シテ
 射撃スルヲ得ズ間モナク逃走スベシ 我ニシテ射撃セ
 ザルトキ敵ハ沈着シテ何回モ有効射撃ヲナシ我損害増
 大スルハ幾多戦訓ノ示ス所ナリ
 但シ監視シテ彈藥ヲ浪費スルハ不可ナリ
 必中射撃ヲ至短時間ニ實施スベキナリ
 斯ルヲ考ヘ和泊丸ハ大丈夫ト信ジ出帆セシメタリ 昨年

末本職古仁屋ニ出張ノ際當番ニ銃ト彈藥トヲ携行セ
 シメ對空射撃準備ヲ命ジ航海セリ 當時ハ丁號戰備
 ナリシモ、丁號戰備下此心掛ケヲ必要トスル所ニ奄美
 地區ノ特色アリ 即チ比律賓作戰後奄美地區ハ完
 全ニ敵航空機ノ來襲圏ニ入レルナリ 嚴密ニ言ハバ
 奄美地區ハ常ニ丙號戰備ヲ要スト言フモ過言ニアラス
 然レドモ全般狀況ヲ判斷シテ平素ハ丁號戰備ニ止メルナリ
 B29ハサテ置キ日米英飛行機使覽ニ依リ米海軍戰鬥
 機⁷グラマン⁷艦上雷撃機⁷グラマン⁷米陸軍爆撃
 機⁷ボレーン⁷機⁷B17⁷機⁷コンソリデーテッド⁷B24⁷機⁷ノースアメリカン⁷B25⁷
 等ノ航續距離ト徳島⁷島⁷南方⁷ノ距離トヲ比較研究
 セバ思ヒ半バニ過グベシ(附録ニ參照)
 即チ取り越シ苦勞度ニ過ルトキハ奄美地區ハ舍テ航海出來

ザルバ萬全策ヲ講ジ任務ニ邁進スルトキ必要最小限ノ航海ハ
確保セラルベシ 否確保セザルベカラザルナリ、 此信念ノ下ニ
當日空襲警報ヲ解除セルナリ

第三 結論

以上述べタル所ハ卒直ナル所見ニ對シ卒直ニ答ヘタルソミナラズ本日
以後ノ戦力強化ニ直チニ影響スル所大ナルヲ思ヒ忌憚ナク所
信ヲ披瀝セルニ過ギズ 敢テ過去ヲ責ムニアラズ 又自己ヲ辯
解スルニアラズ 眞ニ守備隊強化ノ爲ニ微衷ヲ述ベタルノミ
虚心坦懷之ヲ聽ギ本日以後ノ戦力ヲ培ハンフトヲ切望ス
尚徳之島ノ周邊ニハ常ニ敵潜水艦アリ守備隊ハ行動上防
牒ニモ細心ノ注意ヲ要スルコトヲ附言ス

附録

一徳之島ヲ南方要點ノ距離

三戰備ノ度

機	種	航	續	距	離
グラマン	艦載戦闘機	最大	一、八〇〇	料	
グラマン	艦載雷撃機	〃	二、三〇〇	〃	
ボーイング	B17	〃	六、〇〇〇	〃	
フンソリテード	B24	〃	七、五六〇	〃	
ノースアメリカン	B25	〃	五、一八一	〃	

ニ米軍飛行機航續距離抜萃

3. フレイテラ島、タロバンレ飛行場ハ徳之島ヨリ約一、八〇〇料

一、〇〇〇料

2. フルソン島北端、東方約七〇〇料、海上ハ徳之島ノ南方約

〇〇料

1. 臺灣南端、東方約八〇〇料、海上ハ徳之島ノ南方約七

甲號戰備

敵有力部隊ノ上陸(著陸)攻撃ノ虞アル場合ニシテ
全部隊戦闘配置ニ就キ隨時戦闘ヲ開始シ得ルノ準備

ヲ整フルモノトス

乙號戰備

敵ノ上陸(著陸)ノ算少キモ空襲又ハ砲撃ヲ受クル

虞アル場合ニシテ各部隊ハ對空並ニ海上警戒ヲ嚴ニシ所要ニ
應ジ監視哨ヲ増加スルト共ニ水際戦闘ノ準備ヲ整ヘ對空
射撃ニ任ズル部隊ハ全部隊戦闘配置ニ就キ爾餘ノ部隊ハ
警戒或連絡ノ處置ニ遺憾ナキヲ期シ砲撃ノ損害ヲ被ラ
ザル如ク掩蔽ス空襲警戒報發令セラレタル時ハ別命ナク本
戦備ニ移ルモノトス

丙號戰備

敵機動部隊近接ノ徵アルカ又ハ敵飛行機、潜水

艦偵察ノ虞アル等警戒ヲ強化スルノ要アル場合ニシテ各部隊
ハ對空並ニ海上警戒ヲ嚴ニスルト共ニ對空射撃ニ任ズル部隊ハ

一部ヲ以テ戦闘配備主力ヲ以テ警戒配備ニ就キ爾餘ノ部隊ハ迅速ニ掩蔽下ニ待避シ得ルノ準備ヲ整ヘ特ニ我が配備兵力等ヲ暴露セザル如ク留意スルモノトス 警戒配備報發令セラレタル時ハ別命ナク本戦備ニ移ルモノトス

丁號戦備

我が哨戒圏及電波警戒圏内ニ敵ヲ認めザル

場合ニシテ各部隊ハ主トシテ對空及海上監視哨ニ依リ

警戒ヲ行ヒ爾他ハ教育訓練築城交通作業其ノ他ノ勤

務ニ從事ス

但シ常ニ敵ノ奇襲攻撃手ニ對應シ得ル如ク所要ノ準備ニ

遺憾ナキヲ要ス